

様式第 4 号その①（第 6 条関係）

令和 7 年 4 月 4 日

宗像市長 伊 豆 美 沙 子様
（宗像市議会議長経由）

議員名 井浦 潤也

政務活動費収支報告書

宗像市議会政務活動費の交付に関する条例第 5 条第 1 項の規定により、別紙
のとおり 令和 6 年度政務活動費収支報告書を提出します。

令和 6 年度政務活動費収支報告書

議員名 井浦 潤也

1 収入

政務活動費 264,000 円

2 支出

(単位：円)

項目	領収書額	政務活動費報告額
研修開催費	0	0
調査研究費	0	0
資料作成及び資料購入費	79,614	79,614
広報及び広聴費	227,700	184,386
人件費	0	0
事務所費	0	0
合計	307,314	264,000

3 残額

0 円

4 添付書類

領収書等証拠書類

(様式1)
令和6年度 政務活動費明細書

			費目												(単位:円)	
No	内容	項目	旅費	講師 謝金	出席 負担金	印刷 製本費	図書 購入費	備品 購入費	消耗 品費	使用料	郵送料	手数料	賃金	その他	領収書額	政務活動費 報告額
1	「日本教育新聞」	資料作成・資料購入費							33,000						33,000	33,000
2	「日本農業新聞」	資料作成・資料購入費							35,292						35,292	35,292
3	「公明新聞」	資料作成・資料購入費							11,322						11,322	11,322
4	印刷費	広報及び広聴費				227,700									227,700	184,386
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
16																
17																
18																
19																
20																
合 計						227,700			79,614						307,314	264,000

研修開催費		
調査研究費		
資料作成・資料購入費	79,614	79,614
広報及び広聴費	227,700	184,386
人件費		
事務所費		
合 計	307,314	264,000

新聞代(1紙目)

領 収 証

No. _____

井浦潤也 様

令和7年3月3日

★ ¥ 49,200-

但西日本新聞朝刊(令和6年4月~令和7年3月)代金として

上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(%)

福岡県宗像市三倉2番18

西日本新聞 エリアセンター東

日本経済新聞

TEL(0940)36-2316 FAX 37-1627

T 3 2 9 0 0 0 2 0 3 5 5 1 7

ユウエー 97-1036

備考欄：

No. 004439

領 収 書

井浦潤也

殿

7年 3月 31日

受月	渡日	品名	数量	単価	金額	備考
3	3	日本農業新聞	4	2625	10492	
		購読料	8	3100	24800	
		R.6年4月~R.7年3月				
合 計 (消費税含む)				金額	735292	
				税込金額	うち消費税額	
				10%対象	円	円
※軽減税率対象				8%対象	35.292	2.614

上記の金額確かに領収いたしました。

出資者以外で
取引額が5万円
以上の場合は
印紙貼付宗像農業協同組合
登録番号 T92900050059

検印 取扱者

領 収 証

井浦潤也 様

No. 19871



★ ￥ 11,322 -

但 公明新聞(令和6年4月分~令和6年9月分)代として、

令和6年10月29日 上記正に領収いたしました

内 訳

税抜金額

消費税額等(8%)込

T2810746836760

コクヨ ウケ-55

収 入
印 紙

聖教新聞宗像販売店

小 田 大 助

〒811-3405 福岡県宗像市須恵4-4-27

TEL 0940-33-2900

FAX 0940-33-2988

領 収 証

いうら潤也 様

㊦ 227,700-

但 し いうら潤也通信印刷代

上記金額正に領収致しました

令和 6 年 10 月 3 日

内 訳	
税率10%対象	
税 抜 金 額	207,000 円
消 費 税 額	20,700 円
内消費税額	円



福岡県宗像市田熊

ニシムラ

TEL (0940) 3

FAX (0940) 3

登録番号 T68102



取扱者印





井瀬 潤也 委員長

ご挨拶

皆様方のご支援のお陰で初当選以来、2期8年間議員として常に誠心誠意で市政に挑んでまいりました。その間、市民の皆様からの市政への問題提起や課題に対する意見を多くいただき、本市の将来を見据えた政策となるように議会で提案してきました。

実現した政策も着実に増えてきましたが、まだまだ政策につながっていないものもあり、これからも政策実現に向けて情熱をもって取り組んでいきます。

後援会
事務所TEL 0940-72-4999 FAX 0940-72-4998
〒811-3440 宗像市大井南 2-3 E-mail jun_yo_koki_b4@yahoo.co.jp

地元からの要望の一部を紹介

宗像警察署入口信号の歩行者用信号設置

平成29年11月30日の一般質問「通学路に歩行者用信号の設置を」にて、「宗像警察署入口信号」の一部に歩行者用信号がないと問題提起したが、令和5年度に念願の設置が行われた。



歩行者用信号設置

県道529号線田熊田島線歩道整備

これまで大井自治会の役員の方と過去数回にわたり、福岡県議会議員井上正文県議と一緒に歩道の整備をお願いしてきたが、令和6年度に先ずは一部の区画の工事が着手されている。



県道 529 号線歩道整備

南郷小学校のネット

南郷小学校の校長先生と保護者の方から、運動場のネットが低いために児童が遊びで蹴ったボールがネットを越え、近隣の住宅に影響があったと相談を受けた。すぐに市の担当課に現状を踏まえ対策をお願いしたところ、ネットを高く設置してくれた。



南郷小学校のネット

后曲交差点カラー舗装

この交差点は、小・中学生をはじめ通学路として利用している高校生や地元の高齢者をはじめ市民の皆様も横断も多い。しかし、信号がなくここ数年で朝夕の交通量が増えたことで危険性が増したことで信号機の設置の要望を福岡県議会議員井上正文県議と福岡県警にお願ひに行った。県警の調査後に信号機設置条件を満たしていないとの事で信号機の設置には至らなかったが、再度「カラー舗装だけでも検討してほしい」とお願いしたところ、注意喚起ができるようにカラー舗装の設置は行ってくれた。



后曲交差点カラー舗装

白山の頂上に看板設置

白山の頂上から、「神宿る島」沖ノ島が眺望できる場所があり、ふるさと山の景観を守るため、また

登山による観光客の増加を見込んで、案内看板を設置したいと相談を受けた。市の担当課にお願ひしたところ、登山者への案内として看板を作成、白山城址を守る会の方々が看板を設置してくれた。



白山頂上に看板設置

横山地区のため池柵「胡麻ヶ谷池」の整備

横山地区の農業従事者の方から、豪雨の際に農業用ため池の「ため池柵」(ため池の水位を調整する階段状にある丸い蓋)が老朽化により蓋が開かず、豪雨時に蓋を外す作業が困難になっていたとのことだった。すぐに市に掛け合い、現地を確認した後に「ため池柵」の蓋を開けやすくするよう修繕してくれた。

横山地区のため池柵の整備

地元での活動の一部

常に地元の活動に参画し、市民の皆様と協力してまちづくりに取り組んでいます。

■東郷地区コミュニティ運営協議会の青少年育成部会長として、コミュニティ活動を行っています。

・ばんきフェスタ東郷

・どんと焼き

・自転車教室

・子ども教室

■中央学園運営協議会の副会長として、学校と地域をつなぐ活動を行っています。

・サポート隊の活動

■スポーツを通して、青少年の健全育成の為に南の郷クラブ「ジュニアソフトテニス教室」にてコーチをしています。



自転車教室



ばんきフェスタ東郷

会派での成果

宗像市議会では、各議員がそれぞれ会派(グループ)に所属しています。私が所属しています「宗像志政クラブ」では9人の議員で構成されており、それぞれの議員が自治会・コミュニティ活動に深く携わり、地域課題解決のため積極的に取り組んでいます。令和4年10月に宗像市長へ「コロナ禍や物価高騰の影響を受ける市民に対する支援を求める緊急要望書」を

提出以来、毎年市民の皆様から頂いた声を市に対して要望を行い、成果を上げてきました。

令和4年緊急要望の結果

●物価高騰対策
●地元の事業者及び農業者・漁業者向けの光熱費・燃料費等の高騰対策
●新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、経営・労働環境が悪化している介護施設や障がい者施設等への支援策
●公共事業、備品調達等について、これまで以上に市内循環型へ移行する議論に繋がった。

令和5年度予算要望の結果

●医療・介護を中心とした福祉施設の人材確保についての支援策
●公有財産の活用策
●職員の働き方改革や業務効率化等による負担軽減策

令和6年度予算要望の結果

●モビリティ調査研究や公共交通体系維持のための投資
●コミュニティ・自治会活動を活性化させ、住民自治の基盤を強化するための投資
●防災基金の創設による市民生活の安全安心の取り組みへの投資
●行政、市内事業者の人材確保や市民の就業の機会づくりのための投資
●生産年齢人口の定住化を促進するための投資
●学校給食で地元の有機野菜の利用を促進すること。

各種団体やとの意見交換からの要望実現

●保育事業者の声として、職員給与に影響する「地域格差の是正」に対する課題を聞いた。
●地元の「衆議院議員宮内ひでき代議士」と一緒に、数回にわたり国へ要望を行ったこともあり、令和7年度から「地域手当の改善」が行われるようになった。
●郵便事業者団体の声として、再配達負担と脱炭素施策への貢献の提案があった。
●副市長・執行部との意見交換会にて要望を行ったこともあり、令和6年度に事業が実施されることになった。

●介護事業者団体の声として、職員の業務負担、人材不足が課題と聞いた。
●市長へ予算要望書を提出し、令和5年度「宗像市介護職員等資格取得等補助金」、令和6年度「宗像市介護人材確保・定着事業補助金」が実現した。
●教育環境や避難場所の環境改善のため、小・中学校体育館に空調設備の設置(エアコン導入)を行うよう、令和3年会派代表が代表質問で取り上げ、市長から前向きな答えを導き出した。令和6年度中に全ての小・中学校の体育館に空調設備が設置されることになった。

一般質問の内容

議会での一般質問にて様々な政策を提案、政策実現に繋げています。詳細はQRコード（一部抜粋し集約しています。詳細はQRコードを読み込んで映像をご覧ください。）

R2年12月3日定例会

1 いれからの就労支援について



【問題点】

市民の誰もが社会を構成する一員として活躍し、自立した生活を送ることができる社会を実現するためには、障がいのある人や、ひきこもりの人に就労の機会が提供されるよう、更に環境を整備することが必要と考える。

【私の提案】

就労支援を総合的に考えていくためには、農福連携も視野に入れて活動ができる「正助ふるさと村」の利活用は可能か。

【市の回答】

障がい者やひきこもりの方への就労支援として「正助ふるさと村」の利活用は十分可能であると考える。

2 公営斎場の運営について

【問題点】

公共施設の維持管理は市の責務であり、常に管理費や修繕費が発生し予算が必要となっている。しかしながら市の財政は限られているために、公共施設の有効活用は重要であると考えている。

【私の提案】

既存の公共施設をより効率的に活用する事で、増収につなげていくことが大切で、その一つでもある「公営斎場」の運営を広域的に拡げる事も必要と考えるが。

【市の回答】

広域的な視野を持った行政運営は不可欠であると考えている。特に公共施設は、市民サービスの向上、維持管理を考えると、地元の協力あつてのものと考えてるので、今後も調査研究をしていきたい。

R3年3月4日定例会

1 いれからの公共交通について



【問題点】

本市の将来都市像でもありますが、「コンパクトで魅力的な地域がネットワークする生活交流都市」の実現に向けた取組みをさらに推進するため、立地適正化計画を策定しているが、その中に交通ネットワークの強化し、公共交通の利便性をさらに高める必要がある。

【私の提案】

公共交通の一つでもあるコミュニティバスの利便性向上のためにも、総合的な観点で地区をまたいだルートへの検討も必要と考える。

【市の回答】

地区をまたぐとなると、地域との合意形成も見直しが必要であり、ルート変更は市内全域の公共交通体系の見直しに併せ検討したい。

2 スポーツ環境の充実について

【問題点】

スポーツ環境の充実を考えるにあたり、中学校における部活動の果たす役割は大きい。現在、中学校の部活動において入部したい部活動が通学区域にない場合、部活動を理由として区域外通学は認められていない。

【私の提案】

通学区域内の中学に入部した部活動がない場合、区域外通学を認める事は検討できないか。

【市の回答】

部活動の存在を区域外通学の理由とすることは、その影響も含め様々な観点から検討が必要と考える。R3年6月17日定例会

1 宗像市の未来の姿は

【問題点】

わが国では、人口減少や少子高齢化に伴う諸問題に対して総合的な対応が求められる。そこで、本市では「都市再生の推進」を市政運営の重点ポイントとして掲げ、都市再生にかかる具体的な取組のうち、日の里地区と自由ヶ丘地区を中心に計画を進めてきたが進捗状況は。

【私の提案】

この2地区のモデル事業が基本となり、市全体の団地再生に波及させることで、市民生活の向上に繋がると考えるが。

【市の回答】

日の里地区の東部生活拠点では、民間事業者が主体となり、市民を巻き込み地域づくりを実施した。東郷駅周辺の里口周辺でも、商業、医療、福祉など生活サービス機能の充実で移住環境の質的向上を図る。自由ヶ丘地区では、自宅から公共交通までの自動運転や店舗型移動サービスの実証事業を行う。また、行政が民の力を最大限引き出すことが不可欠であり、この視点を持って取り組みを進めていきたい。

2 通学路の安全な環境を目指して

【問題点】

通学路をはじめ高齢者の方が安心して歩行できるような道路環境が急務と考える。歩道の用地が確保できない場所では、路側帯のカラー化などの対策を行うことで一定の効果はあるが万全であるとは言い難い。

【私の提案】

歩道確保に時間を費やす場所には、速やかに対策が行えるカラー舗装の整備を。また、段差を付けたハンプの活用は。路側帯のカラー舗装は、引き続き整備をしていく。ハンプについては、周辺住民の理解や合意が得られかつ多くの効果が見込まれるといった条件が整う場合には、設置について検討したい。

R3年9月2日定例会

1 東郷小学校の将来像について

【問題点】

東郷小学校の現在の校舎及び体育館は、いずれも40年前後が経過しているが、児童数やクラス数の増加において、プレハブ棟も増築され数年が経っている。また、学校敷地内の一部が土砂災害警戒区域に該当しているなど、安心安全上の問題を抱えている。

【私の提案】

水泳授業において、日の里東小・日の里西小では学校のプールを使用せず、外部事業者へ委託した成果が大きいと聞いている。東郷小学校でも水泳授業を外部委託し、プールの跡地に校舎の建設など考慮できないか。

【成果】

水泳授業の外部委託は、令和3年度に日の里東小・日の里西小、令和4年度から東郷小で開始され、令和6年度からは、大島学園・地島小を除く全ての小学校で開始された。

【市の回答】

現在の東郷小学校の校舎だけでは教室の転用が限られている。人口の増加が長期間継続するようであれば、将来を踏まえた事業計画を立案し対応しなければならぬと考える。また、水泳授業の外部委託が進むとプールの跡地利活用も検討できると考える。R3年12月1日定例会

1 ミニミニ・スクールの展望について

【問題点】

令和元年度から中央学園、日の里学園をモデル学園としてミニミニ・スクールを導入し、令和4年度には、城山学園、学びの丘学園（自由ヶ丘中学校区）、かとう学園、玄海学園、大島学園でミニミニ・スクールを開始することになっているが、これまでに以上地域と学校の連携が必要であると考えている。

【私の提案】

地域と学校をつなぐ地域学校協働活動推進員の役割が重要で、各小中学校単位に一人ずつの選任が理想と考える。また、ミニミニ・スクール導入には各地区ミニミニ運営協議会の理解が必要で、市内での連携が必要不可欠であると考えているが。

【市の回答】

地域学校協働活動推進員につきましては、各ミニミニ運営協議会にばらつきがあるため、今後検討していきたい。また、市内の連携については教育委員会とミニミニ協働推進課だけでなく、しっかりと連携して市内にも浸透させたい。

2 不登校児童・生徒の支援体制は

【問題点】

今日の社会環境の激動により、子どもや若者をめぐる問題として不登校やひきこもりがあり、さらにはコロナ禍の影響で急激に増加している現状がある。

【私の提案】

不登校児童・生徒の中には、人とのコミュニケーションが苦手な児童・生徒が多いと聞いている。そこで、農業体験など屋外での体験を通じた活動も有効的であると考えているが。

【成果】

令和5年4月から正助ふるさと村に、農業体験もできる子ども自立サポートセンター「ホープ」が開設された。R4年3月2日定例会

【問題点】

我が国では、高齢化の進行が続いており、高齢化率は今後さらに上昇することが予想されている。本市においては、団塊の世代が75歳以上となる令和7年と、現役世代が急減する令和22年を見据え、保健福祉サービスや介護保険事業の整備等充実させるため、令和3年度を初年度とする「第8期宗像市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定している。これから本市が進めていく地域包括ケアシステムの構築の現状や課題は。

【私の提案】

高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を継続していくため、地域包括ケアシステムのさらなる深化・推進が必要では。

【市の回答】

平成27年から地域包括支援センター職員やケアマネージャーなどの人材育成を積み重ね、高齢者の自立支援をいかに行うか、高齢者が望む生活を実現するための支援をいかに行うかといったシステム実現のために必要な考え方が定着ができ、少しずつ地域包括ケアシステム構築は進んでいると考えている。

【問題点】

本市が持続可能なまちであり続けるため、開発から半世紀が経過した大規模住宅団地である日の里地区では、顕在化してきた都市の課題解決に加え、次の世代に向けたまちづくりの官民連携で取り組んでいる。令和3年5月にグラウンドオープンした生活利便施設「ひのさと48」は、



東郷小学校プレハブ棟



子どもの自立サポートセンター「ホープ」

既存団地をリノベーションし、住民が交流する拠点としてよみがえらせるといった新たな活用方法で全国的にも取り上げられている。この「日の里モデル」を本市の他地域の団地再生につなげていく必要がある。

【私の提案】

日の里地区は、生活に必要な機能を集約させており、集約された施設の利便性のさらなる向上が必要と考える。そこで、駅前の拠点でもある「Cook&hubのさと」で公的なサービスや、観光案内所の一端を担うなどの検討できないか。また、買い物に不便と感じる高齢者に対して、オンデマンドバスをもっと周知させる必要があるのでは。

【市の回答】

「Cook&hubのさと」は、JR東郷駅を利用される方を中心に、多くの方に認知されやすい場所にあることから、これまでも市政情報の発信など協力を頂いている。住民の利便性向上に資する事業については、今後も連携を検討したい。また、観光客の来訪もあり、既に観光案内所をしている実態もあり、施設側と協議、検討したい。オンデマンドバスについては、アプリ相談会をはじめさらに利用促進に向けた啓発を継続していきたい。

R4年6月29日定例会

1 不登校児童・生徒の総合的な支援を

【問題点】

本市では、不登校児童・生徒が社会的に自立できるように、「教育サポート室エール」があり児童・生徒をサポートできる環境があるが、新型コロナウイルスの感染症の影響もあり、不登校児童・生徒はさらに増加傾向にある。そこで、令和5年4月に開設予定の「子どもの自立サポートセンター」の役割が重要と考える。

【私の提案】

中学校6校に3人配置しているスクールソーシャルワーカー(SSW)が気になる児童・生徒に声かけを行い、面談をするなどして課題の早期発見につなげていると考える。また、保護者が相談できる体制も必要では。相談件数が増えていることからSSWの増員が必要と考えるが、令和5年度からSSWが1人増員し、4人配置となった。

【市の回答】

SSWの相談件数の増加とともに相談内容も多様化しており、今後の相談支援体制についてはSSWが学校や関係機関と協力して問題解決を目指していく体制を整えるとともに中学校区にSSWを1人配置するといった国の目標を見据え、しっかりと状況を分析したい。保護者への対応としては、社会資源につなぐなどの保護者支援にも取り組んでいる。

2 スポーツ施設の充実を

【問題点】

スポーツは青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康の保持増進など、国民生活において多面にわたる役割を担っている。スポーツを行う環境の充実が必要と考えるが、宗像中央公園テニスコートのラインの浮き上がりや表面の土の状態が悪いなど確認している。宗像ユリックスのテニスコートにおいても、砂入り人工芝(オムニコート)の劣化部分を継ぎ足している箇所が多数みられる。また、公式試合に欠かせない審判台がなく、中体連の大会も他市で行われている。

【私の提案】

宗像中央公園テニスコートや、宗像ユリックスのテニスコートの状態が悪い箇所が目立っているため、早急に整備を行ってほしい。また、公式試合ができるように審判台の設置も必要であると考える。そのことで利用者が増えれば公共施設の収益も上がるのではと考える。

【成果】

宗像中央公園テニスコートは、令和4年11月からコート8面全て整備が完了した。宗像ユリックステニスコートは、令和5年12月からコート8面全て整備が完了した。



新しく整備されたユリックステニスコート



新しく整備された中央公園テニスコート

R4年8月31日定例会

1 宗像市における自治体DX推進状況について

【問題点】

自治体におけるデジタル・トランスフォーメーション(DX)において、誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化を推進するためには、全ての市民を対象とする観点が必要である。

【私の提案】

全ての市民を対象にDXを進めるためには、本市の総合計画(マスタープラン)への位置づけが必要と考える。また、ユリックス・メイトム、子育て支援センターやコミセンなど多くの市民が利用する公共施設については、施設予約の電子申請や電子決済を進めるべきでは。

【市の回答】

まちづくりを進めていく中で、デジタル化は避けて通れないと考えるため、長期的な視点を持って作成していく総合計画に位置付けられるよう調整したい。施設予約の電子申請では、以降可能な施設から順次手続きを始めているが、指定管理者との調整などが必要な施設は、今後、検討・調整を進めていきたい。

R4年11月30日定例会

1 公共交通を生かした持続可能なまちづくり

【問題点】

令和3年3月からオンデマンドバス「のるーと」を実証運行するなど、市域全体の交通系の再編に取り組み方針を示しているが、これからの交通政策は単に移動の利便性を向上させるだけではなく、まちづくりに進めるべきだと考える。

【私の提案】

9月にJR九州のダイヤ改正が行われ、本市にとつては実質的な減便となった。住宅都市としての価値が損なわれないよう、鉄道の便数維持に向けた取り組みを展開すべきでは。

【市の回答】

今回のダイヤ改正については、JR九州に対し増便のダイヤ改正や、特急列車利用増に向けた経済的負担の軽減の検討を要望してきた。今後もJR九州や西鉄バスとの連携を脱炭素の観点からさらに深め、利用促進に取り組んでいきたい。

2 安全な学校環境を目指して

【問題点】

学校において、児童・生徒は守られるべき対象であることとどまらず、学校教育活動全体を通じ、自らの安全を確保することが求められる基礎的な資質・能力を継続的に育成していくことが求められている。

【私の提案】

児童・生徒が自らの安全を確保できるよう、各学校での防犯スポーツ教室を開催する必要があると考えるが、危険回避を体で覚え、迅速に行動がとれることは重要である。不審者への対応も計画的に実施するよう指導していきたい。

R5年3月2日定例会

1 「むなかた子ども大学」のさらなる充実を

【問題点】

本市では、令和3年3月に宗像市学校教育基本計画を見直し、その取り組みの一つに、「体験活動等を通じた豊かな心の教育」を掲げており、それを実現する具体的な施策が令和4年度から始まった。本市ならではの「むなかた子ども大学」の開校といえる。初日に行われる各小学校における事業は、それぞれの地域の特色を活かしゲストティーチャー等による講義や体験活動が行われているが、体験内容によっては道具や資材等の予算が必要と考える。

【私の提案】

2日間の子ども大学において、初日の各小学校で行われている事業では、専門的な体験講座に資材等の



むなかた子ども大学

予算の確保が必要と考えるが、また、2日目の市内3か所で開催の事業では、応募した児童の全てを受け入れられる方策が必要と考えるが。

【成果】

各小学校で開催している子ども大学の1校当たりの予算は、令和4年度3万円、令和5年度4万円、令和6年度は、年間を通じて1万7千円から18万円(児童・生徒数に応じて配分)。

【市の回答】

市内3か所で行った事業では、協力して頂ける企業や団体の拡充を図り、各コースの参加人数の上限を見直すことで、多くの子どもたちが参加できるよう努力したい。

2 物価変動に対応した契約事務について

【問題点】

我が国の社会資本は、豊かな国民生活の実現及びその安全の確保、環境の保全、自立的で個性豊かな地域社会の形成等に寄与するものであり、現在及び将来の代にわたる国民の貴重な財産である。市民の安全安心な暮らしを支えていくためには、まずは地元の公共施設は地場業者が責任を持って整備し、守っていくという大原則を念頭に進めるべきと考える。

【私の提案】

建設工事用の相場を示す指標の一つである「建設工事費デフレター」によると、建設工事費の指数は大きく上昇しており、今まで下位の等級で請け負うことができた工事が請け負えなくなっている。そこで、等級ごとの標準請負工事金額の見直しが必要と考えるが。

【市の回答】

資材を含めた市場の経済情勢や、他自治体の状況などを注視しながら、発注基準の在り方について検討したい。

R5年6月15日定例会

1 食育・地産地消のさらなる推進を

【問題点】

「食は、私たちが生きていく上での基本的な営みの一つであり、健康な体や精神を育むためには欠かせないものである。特に幼少期からの食育の取り組みが大人になってからの食習慣に与える影響は大きく、幼稚園・保育園を始め、小・中学生へ成長する過程において、どのように食育に取り組むかは重要な課題であると考えている。

【私の提案】

学校給食の安心は、地産地消が基本と考える。また、地域経済の活性化、食育の環境を促進し、環境保全にもつながる「オーガニック給食」を進めるにあたり、有機農業、減農薬などの環境配慮型を進めることは、農家にとって大きなハードルやリスクが伴う。有機農業者間の情報共有、技術力を高める研修などの仕組みはできないか。

